

# NEWSLETTER

Division of Chemical Information and Computer Science  
The Chemical Society of Japan

日本化学会  
情報化学部会

Vol. 1

No. 1

## 目次

情報化学部会が発足して ..... 部会長 佐々木 慎一 1

### 関連行事

情報化学討論会 ..... 3

構造活性相関シンポジウム ..... 4

その他 ..... 4

情報化学部会内規 ..... 6

部会員名簿 ..... 8

# 情報化学部会が発足して

部会長 佐々木 慎 一

(豊橋技術科学大学)

念願の情報化学部会の設置が理事会に承認されたのは昭和57年12月8日、その設置を報告してささやかなお祝をしたのは58年4月1日京都における年会の折であった。当日は部会の実現にお骨折りいただいた大木道則教授や情報化学育ての親のお一人である米田幸夫教授らからお祝や励ましのお言葉をいただくとともに内外の関係各位からの祝電も披露された。参加者は優に100名をこえた。

振り返ると化学と情報を話題とするあつまりの第1回は筆者の知っている限りでは44年鎌田仁教授主催の軽井沢緑蔭セミナーではなかったかと思う。これ以後故島内武彦教授・湯川泰秀教授・藤原鎮男教授・前記米田教授らの力強い牽引があって47年名古屋における日本化学会秋季年会での化学と情報特別討論会を皮切りに広島・博多・仙台と毎秋必ず同種の討論会が年会に包含され、ついには情報化学・計算機化学の名で年会のレギュラーセッションの地位を確保するに至った。47年はもう一つ記念すべきことがある。この年分析化学国際会議(ICAC)が開かれそのポストコンgressシンポジウムとして化学と情報の会が仙台で田中信行教授主宰のもとに行なわれた。Jurs, Isenhourら欧米から5名、日本側から4名の話題提供がありわずか1日ではあったがきわめて密度の高い討論の場となった。パターン認識の化学への応用が人の口の端にのぼるようになったのはこのとき以降である。計算機化学もやっとな権を得ましたなという米田教授の述懐をいまに忘れることができない。このように化学と情報、化学研究における計算機利用の研究が進むなかで、化学データベースの開発も盛んになってくる。化学文献データベースなかんづく文献の抄録と流通の事業は千原秀昭教授らによってつとに行なわれてきたところであるが、40年代後半からは化学情報協会、日本科学技術情報センターなどが拠点となって急速に機械化への道をたどることになる。またファクトデータベースの構築も活性化してきた。ボランティアな作業として行なわれてきた化学データの集積は近年ようやく一元化して組織的にデータベースを作ろうとする気運が具体化してきた。アメリカなどに比べてかなりのおくれをとったとはいえ慶賀すべきことである。

このような情勢のなかで情報化学進展のためにわが部会が貢献できるとすれば当面つぎの諸項目ということになる。

**討論会** 年会の折に保証されている発表の場とは別に情報化学討論会は昨年で数えて第5回に達した。最近の傾向としてデータベースや文献検索の発表も多いので計算機化学者だけでなく図書館関係の方々の参加を呼びかけたい。この討論会の最近の収穫は構造活性相関シンポジウムと会期・会場をともにしうようになったことである。元来情報化学、計算機化学といふ構造活性相関といふその研究の手法・目標には多分に共通するものがある。藤田稔夫教授らの賛同を得て昨年併催を果した両討論会は本年も12月に京都ではほぼ同じ形で実現する。この種の併催を漸次拡大させ生物・医学(情報工学の専門家も参加するより総合的な情報化(科)学討論会を構想することは次の課題であろう。なお来年以降予定されている国外での会議はつぎのとおり。PACCHEM'84 シンポジウムの一つとして Chemical Information Science (Honolulu, 12月), EUROANALYSIS V と COBAC (Computer-Based Analytical Chemistry) III の併催 (Cracow, 8月), 5th European Symposium on QSAR (Bad Segeberg, 9月), 7th International Conference on Computers in Chemical Research and Education (München, '85) など。

**教育** 化学におけるコンピューター利用の目的の一つは化学事象の予知予測にある。化学合成の経路や実験法の予知、化学構造の予測をはじめ生理活性物質の構造像の予測など化学研究を効率よく行なうためにコンピューターは不可欠となっている。これまでの諸化学と比肩する形で計算機化学が学部のある段階で課せられるべきであり、そのための教材づくりは部会の手で行なわれたらよいと思うものである。欧米ではこれの教科書が出版され広く利用されているというのに、わが国ではこの教育を施しているところは五指にもみたないのではないか。さらに大学内でなされる教育と並行し社会人で管理的立場にある方々への講習会もひん度高く行なわれたらよい。

**産学の協同** 欧米特にアメリカの化学研究用プログラムの開発はきわめてさかんである。大学の教授が自作のプログラムをシステム化して売りあるくこともするし、ソフトづくりのためには著名な研究グループが一挙に企業に引きぬかれたりもする。ひるがえってわが国はソフトは買うものもらうものというのが定着している。どこそこで某システムを買ったからうちでもという風潮はわからぬではないが、家電製品とちがい買ってすぐ使えるというものでない。産業界のニーズに応じて大学が研究者がその持てるものを公開し、わが国独自の有効なツールを創りあげてゆくことは大切であり、部会はそのルブリカントの役を果したい。

**データ集積** 研究室で生産され用を果したのち眠っているデータ類。これを発掘し逐次データベース化してゆくことは新規に標準データを測って集積するのと同じくらい重要である。一口に発掘するといってもはん雑な手続きがつきまとうが、部会がプロモートしてやってゆかねばならぬことの一つである。研究者各位のご理解を願ってやまない。(化学工業, 36, A 456 (1983) 本会だよりNo.22から転載しました。)

部会の新設にあたり、以下の方々から海を越えて祝辞、祝電が寄せられました。(順不同)

March 28, 1983

Professor Shin'ichi Sasaki  
The Division of Chemical Information  
and Computer Science  
The Chemical Society of Japan  
1-5, Kanda-Surugadai  
Chiyoda-ku, Tokyo 101  
Japan

Dear Dr. Sasaki:

The Division of Chemical Information of the American Chemical Society sends congratulations on the recent formation of the Division of Chemical Information and Computer Science of the Chemical Society of Japan. We are sorry we will be unable to send a representative to your first meeting on April 1, 1983, but we are certain it will be successful. We look forward to future cooperation with your Division.

Sincerely,

*Barbara G. Prewitt*  
Barbara G. Prewitt  
Chairman

Rohm and Haas Company  
P. O. Box 718  
Bristol, PA 19007 USA

cc: R. O'Dette  
F. Moses  
M. Matthews  
V. Metanowski

403:ov  
29 Mar 1983

Prof. Shin'ichi Sasaki  
The Division of Chemical Information  
and Computer Science  
The Chemical Society of Japan  
1-5, Kanda-Surugadai  
Chiyoda-ku, Tokyo 101  
Japan

Dear Professor Sasaki:

I have heard with much pleasure that the Division of Chemical Information and Computer Science has been established in the Chemical Society of Japan this year, and that you will be nominated as Chairman of the Division. The Division of Computers in Chemistry of the American Chemical Society wishes its counterpart in the Chemical Society of Japan a long period of fruitful and satisfying service to the computer needs of chemists.

In addition, I send my personal congratulations to you and to your colleagues on the preparatory committee.

Sincerely yours,

*R. Marcus*

RUDDOLPH J. MARCUS  
Chairman, ACS Division of  
Computers in Chemistry

以下本文を省略させていただきました。

Prof. Dr. habil. Z. Hippe

Chairman of Commission for Application of Computers in Analytical Chemistry, Polish Academy of Science

Prof. Ivar Ugi

Organisch-Chemisches Institut, Technische Universität München

Mr. E. Hyde

Managing Director, Fraser Williams (Scientific Systems) Ltd.

Professors Liang Xi-Yun and He Pu

Institute of Chemistry, Academia Sinica

Professor J. E. Dubois

President, University VII of Paris

Professor V. A. Koptuyg

Vice-President of the USSR Academy of Sciences and Chairman of its Siberian Division

Professor J. T. Clerc

Pharmaceutical Department, University of Bern

Professor Morton E. Munk

Department of Chemistry, Arizona State University

Dr. Stephen R. Heller

Environmental Protection Agency of USA

Dr. D. A. Baker

Deputy Executive Director of ACS and Director of CAS

Dr. J. V. Seals, Jr.

Director, International Programs of CAS

Professor J. Zupan

Kemijski Institut, Boris Kidric (Yugoslavia)

# 関連行事

さしあたっての行事は次のとおりです。

## 第6回情報化学討論会

主催 日本化学会 共催 日本薬学会  
・日本農芸化学会・日本分析化学会

日時 12月6日(火), 7日(水)  
会場 京都大学薬学部(京都市左京区吉田下阿達町) 電話(075) 751-2111(代) および京大会館 電話(075) 751-8311(代)  
[交通] 京都市バス近衛通(東大路線)下車, 西へ300m, または京都バス荒神橋(川端通)下車, 東へ200mで薬学部, それから西北300mで京大会館

(講演は1件あたり15分 討論5分)

本討論会と一部重なって, 12月7日, 8日におわり同じ会場で, 第10回構造活性相関シンポジウムが開かれます。

第1日 12月6日(火) 京大薬学部講堂

—(9時30分から)—

1. 数学ソフトウェア NUMPAC の開発とその管理, 検索システム(名大計セ・名大工) ○秦野寛世・二宮市三
2. アレイプロセッサのための分子積分変換のアルゴリズム(分子研・ファコムハイタック) ○柏木 浩・長嶋雲兵・加藤充
3. 物質とその変化に関する情報モデル(関学大情セ)岡田 孝
4. 化学者のための行列作業空間 MAWS(東工大資源研)内野正弘
5. 尿素-水ポテンシャルと尿素の平衡および動的水和構造(京大工) 田中秀樹○中西浩一郎・東原秀和・渡辺信淳
6. 二成分混合液体の混合パタンの解析(お茶女大理) 大下浩美○細矢治夫
7. バリエーション法を用いたパターン認識法における記述子の分類(豊橋技科大・ペンシルバニア州立大)○湯田浩太郎・P. C. Jurs

—(13時20分から)—

8. ペプチドの物性, 構造, 文献データベースを結合したシステム開発と問題点(蛋白研奨励会)○瀬戸保彦・野崎佳子・榎原俊平
9. 合成ペプチドの物性値(融点, 旋光度) データベースの作成と問題点(蛋白研奨励会)○野崎佳子・瀬戸保彦・榎原俊平
10. 化学反応知識獲得のためのグラフィック・エディター(国際科学振興財団・筑波大) 中山 堯・藤原 譲
11. 反応式入力による化学反応データベースの作成と検索システムの開発(中外製薬) 松浦育敏
12. マイクロコンピュータの有機合成化学への応用(東京薬大)○内丸忠文・原 昭二

—(15時20分から)—

13. Markush 式を含む化学物質表現検索システムのための化学構造式簡易入力法(化情協) 工藤喜弘
14. グラフィックディスプレイを用いた化合物構造処理システム-SPHINCS-の開発(2) 検索(富士写真フィルム)○宮川正美・花井荘助・妹尾忠明・山田隆幸
15. タンパク質データベースの新しい図示システム(システム・阪大蛋白研)○伊賀祐一・安岡則武
16. パーソナルコンピュータによる分子構造模型の組立ておよび表示システム(姫路工大)○中野英彦・三軒 齊
17. パーソナルコンピュータによる分子表示システム(コンピュータ イメージ・日本曹達)○羽太謙一・中山 章

第2日 12月7日(水) 京大会館

—(9時から)—

18. マイクロコンピュータを使用する個人用情報ファイル(お茶女大理) 藤枝修子
19. マイクロコンピュータによる化合物名読み取りの試み(1) 炭化水素における構造辞書の構築(東京工専・電総研) 佐藤真一・六車裕孝・前田浩五郎
20. 大規模化学物質辞書システム(5) CAS Registry Nomenclature File 検索システムの開発(東大計セ・図書情報大・阪大理)○小澤 宏・石塚英弘・千原秀昭
21. 化合物基本性質検索システム COMPRES の開発(広島大理) 松浦博厚
22. NMR スペクトルデータベースの作成(豊橋技科大・旭リサーチセ) 奥田治和・湯田浩太郎・高橋由雅・阿部英次○佐々木慎一・田中一雄・山口 晃
23. 有機化合物の構造推定システム CHEMICS の開発の現状—任意の部分構造入力による出力構造の精選(豊橋技科大) 吉富一之・藤原 徹○阿部英次・佐々木慎一
24. 立体異性体列挙のためのアルゴリズム(豊橋技科大)○早坂浩史・宮下芳勝・阿部英次・佐々木慎一

—(13時30分から)—

特別講演 京大薬学部講堂

構造活性相関と計算機化学の接点としての分子力場計算(北大理) 大沢映二

—(15時から京大会館にて)—

25. 構造情報による  $^{13}\text{C}$ -NMR データベースの検索(化技研) ○山本 修・柳沢 勝・早水紀久子
26. IR,  $^{13}\text{C}$ -NMR, MS スペクトル検索システム(化技研)○田辺和俊・平石次郎・田村禎夫・山本 修・柳沢 勝・和佐田宣英
27. 対話型による GC/MS データ検索システム(阪府公害監視セ・国立公害研)○葉山幸雄・奥村為男・今村 清・溝口次夫
28. NIES 法によるマスペクトル検索システムの開発と評価(6)(国立公害研)○新藤純子・安原昭夫・伊藤裕康・溝口次夫
29.  $\text{C}_n\text{H}_m$ ,  $\text{C}_n\text{H}_m\text{O}_1$  化合物の質量スペクトルデータベース。全  $m/z$  ピークの統計的処理(2)(電総研)○小山保二・前田浩五郎
30. 核酸 RNA のコンホメーション変化への統計解析法の応用(阪大薬・統数研)○北村一泰・水野 洋・網崎考志・富田研一・馬場康維

懇親会 12月7日 18時から京大会館で, 構造活性相関シンポジウムと合同で懇親会を開催。会費 4,000円

参加登録費(予稿集代を含む) 4,000円, ただし, 構造活性相関シンポジウムにも併せて登録される方は, 6,000円で両方に参加登録できます。

参加申込方法 ハガキ大の用紙の上半分に, 情報化学, 構造活性相関, 懇親会のうち参加を希望されるもの名前を, 下半分に氏名, 連絡先を記入し, 参加費を同封して, お申し込み下さい(現金書留をご利用下さい)。

参加申込締切 11月30日

申込先 606 京都市左京区吉田下阿達町 京都大学薬学部 大崎健次(電話(075) 751-2111 内線4523または4533)

## 第10回構造活性相関シンポジウム

共催 日本化学会・日本薬学会・日本農芸化学会・  
日本農薬学会・構造活性相関懇話会

日時 12月7日(水), 8日(木)  
会場 京都大学薬学部講堂(京都市左京区吉田下阿達町  
電話(075)751-2111(代))  
〔交通〕京都市バス近衛通(東大路線)下車,西へ  
300m,または京都市バス荒神橋(川端通)下車,東へ  
200m。

(講演は1件あたり25分,討論5分)

本シンポジウムと一部重なって,第6回情報化学討論会(12  
月6日,7日)が京大薬学部および京大会館で開かれます。

第1日 12月7日 (10時30分から)ー

1. オピオイドペプチド類のコンホーメーションと生理活性との相関についての一考察(エーザイ筑波研)○藤田忠男・橋真郎・古川浩一
2. 5,1-Benzothiazocine と Gastrin の分子形状比較(三共化研・三共生物研・三共分析代謝研)○宮本秀一・渡辺英俊・吉本昌文・佐藤進・富田邦之・小林晋作・田村千尋・佐藤定男
3. ゴキブリ性フェロモン活性物質の構造活性相関(三菱化成生命研)○真部俊一・西野親生

特別講演 (13時30分から)ー

構造活性相関と計算機化学の接点としての分子力場計算(北大理)大沢映二

4. Logico Structural Approach を用いた薬物設計のためのシステムの試作(豊橋技科大)鈴木一○高橋由雅・宮下芳勝・阿部英次・佐々木慎一
5. ADAPT プログラムを用いた芳香族アミン化合物の構造-発がん性相関-Rat Breast データセット(ペンシルバニア州立大)○湯田浩太郎・P.C.Jurs
6. 有機ハロゲン農薬の多重水素結合能(三重大農化)○熊沢善三郎・柏村直樹・小山司朗・塩谷直美・滝野卓
7. 2本のアルキル鎖をもつ薬物の定量的構造活性相関(京大薬大・京大薬)○奏さかえ・根矢三郎・舟崎紀昭・町田勝之輔
8. 昆虫幼若ホルモン活性物質の定量的構造活性相関(京大農化)岩村倣○中山章・藤田稔夫

第2日 12月8日 (9時30分から)ー

9. サイバメスリン型ピレスロイド系殺虫剤の定量的構造活性相関(住友化学農薬研)○波多腰信・中山勇・高山千代

蔵・桐野修

10. 除草剤 *N*-ベンジルプタンアミド類の定量的構造活性相関(住友化学農薬研)桐野修○高山千代蔵
11. フェノール類および類縁化合物における光合成阻害活性の定量的構造活性相関(塩野義研)○江角清志・山川真透・武内康義・永礼武尚・炭本信三郎・石塚一郎
12. 農業用殺菌剤イソプロチオランおよび関連化合物によるイモチ菌の生育およびリン脂質の生合成阻害における構造活性相関(日本農薬安全研・日本農薬化研)○伊澤義郎・吉田正徳・内田又左衛門
13. 農業用殺菌剤イソプロチオランおよび関連化合物の物理化学的性質と生体内挙動(日本農薬安全研)○内田又左衛門・村上信義・黒野等

(13時から)ー

14. Phenylacetanilide 誘導体の抗けいれん作用における定量的構造活性相関(神戸女薬大・京大農)○山上知佐子・高尾檜雄・田中光世・堀坂和敬・藤田稔夫
15. サリチルアニリドの構造と脱共役活性(武庫川女大薬・徳島大薬・名城大薬)○三宅暎司郎・奥村景子・寺田弘・浜田喜樹・竹内烈・山本和子
16. 分配係数の測定に利用される高速液体クロマトグラフ用充てん剤(武庫川女大薬・徳島大薬)○奥村景子・三宅暎司郎・寺田弘
17. 分子表面の静電ポテンシャルと  $\log P$  (北里大薬)○広野修一・小林克一郎・森口郁生
18. Hansch-Fujita 法への主成分分析の応用(岐阜薬大)○花村治朗・加納健司・窪田種一
19. 置換基エントロピー定数  $\sigma_s^*$  (阪大薬・近畿大薬)○岩田昭裕・高木達也・佐々木喜男・川木秀子

特別講演 膜作用性薬物の特異性と構造活性相関(徳島大薬)寺田弘

参加費 4,000円(要旨集も含む,当日払),ただし,情報化学討論会(12月6,7日)にも合わせて参加される場合は共通参加費 6,000円(含要旨集)で両方に参加できます。

懇親会 12月7日(水)18時から:京大会館にて,情報化学討論会と共同して開催。会費 4,000円(当日)。

参加申込締切 11月30日(水)。

ハガキに氏名(複数連記も可),勤務先,住所,電話番号,懇親会出席の有無を記入してお申し込み下さい。人数に余裕があれば当日申込みも受け付けます。

申込先 606 京都市左京区北白川追分町 京都大学農学部 岩村倣(電話(075)751-2111 内線6116)

59年1月20日

化学研究における予知と予測のシンポジウム(豊橋技術科学大学にて。責任者佐々木慎一)

プログラムは既にお知らせしましたが,同様のものが化学と工業11月号に載ります。

59年4月春季年会(青山学院大学にて)

特定テーマ「化学におけるデータベースの意義と役割」(仮題)

わが国における化学データベースの現状	千原 秀昭(阪大理)
文献情報検索システム	山本 毅雄(図書館情報大学)
構造検索システム	花井 荘輔(富士フィルム)
スペクトルデータベース	山本 修(化技研)
	阿部 英次(豊橋技科大)
QSAR とデータベース	藤田 稔夫(京大農)

59年12月16~21日

PACCHEM'84; Symposium on Chemical Information Science (Honoluluにて)

現時点において米国側コーディネータ (Dr. Skolnik) と合意している項目は次のとおりです。

1. Chemical Nomenclature
2. Data Bases
  - a. Numerical
  - b. Reference
  - c. Production of
  - d. Critiques of
3. Non-numeric Computation
4. Organic Synthesis
5. Structure Elucidation
6. Structure- Activity Relation
7. Pattern Recognition
8. Data Acquisition and Analysis
9. Chemical Information Systems, e.g., classification indexing and notation systems
10. Communication of Information

口頭発表のコマ数は全体で60くらいです。このうち1/3強が日本に割当てられることになると思います。正式の申込切は5月1日ですが、その前にご希望の有無をうかがって予備的なプログラム作りをしたいと思います。下記の事項を2月末までに佐々木までご連絡下さい。ポスターセッションはこれとは別に用意致します。

・発表者氏名所属 ・演題 ・要旨 150—200字 (日本語)

# 日本化学会情報化学部会内規

(昭和57年12月6日 第427回理事会承認)

## (総 則)

1. 本部会は、日本化学会情報化学部会(Division of Chemical Information and Computer Science, The Chemical Society of Japan)と称する。
2. 日本化学会情報化学部会(以下部会という)の運営については、日本化学会定款ならびに部会規程によるほか、この内規の定めるところによる。
3. 部会は、事務所を〒101東京都千代田区神田駿河台1-5 社団法人日本化学会(電話03-292-6161(代表))に置く。
4. 部会は必要に応じて支部を置くことができる。支部に関する規程は、別に定める。

## (目的および事業)

5. 部会は、化学情報、計算機化学など情報化学の進歩発展のために、研究者の研究の促進と情報の交換を行い、社会の発展、人類の幸福に寄与することを目的とする。
6. 部会は、その目的を達成するために、つぎの事業を行う。
  - (1) 日本化学会における情報化学に関する行事の分担
  - (2) 研究発表会、討論会、講演会、講習会等の企画と実施
  - (3) 部会関係の情報の収集とその記録の配布
  - (4) わが国内外の関連学協会等の関連部門との連絡と交流
  - (5) その他目的達成に必要と認められる事業

## (部 会 員)

7. 部会員は、正部会員、法人部会員の二種とする。
8. 日本化学会会員が正部会員として部会に入会しようとするときは、申込書に正部会員会費を添えて申込むものとする。
9. 法人部会員が部会に入会しようとするときは、申込書に法人部会員会費を添えて申込み、部会役員会の承認をえた場合に法人部会員となる。
10. 正部会員、法人部会員の会費は別に定める。

## (運 営)

11. 部会には、部会長1名、副部会長若干名、幹事若干名、部会監査2名(以下部会役員という)を置く。
12. 部会役員をもって部会役員会を構成し、部会の運営にあたる。
13. 部会役員会は、部会員の中から次期部会役員を選出し、部会審議運営委員会の承認をえて会長が委嘱する。
14. 部会役員の任期は1カ年とし、3月1日から翌年の2月末日までとする。ただし、重任は妨げない。
15. 部会長が欠けたとき、その他の部会役員が欠けて部会の運営に支障を来す恐れがあるときは、部会役員会において補欠を選出し、部会審議運営委員会の承認をえて会長が委嘱する。後任者の任期は、前任者の任期の残存期間とする。
16. 部会は、必要に応じ部会顧問若干名をおくことができる。顧問は部会役員が選考し、部会審議運営委員会の承認を得て会長が委嘱する。顧問は、部会役員会の諮問に応じ、また意見を述べるることができる。顧問の任期はとくに定めない。
17. 部会長は、毎年2月末日までに次年度事業計画および収支予算案を部会審議運営委員会に提出して、その承認をうける。

## (分科会、小委員会)

18. 部会には、必要に応じて分科会および小委員会を置くことができる。

## (会 計)

19. 部会の運営に要する経費は、部会会費、部会が開催する行事の臨時会費、出版物の購読料、その他の収入をもって支弁する。
20. 部会の収支決算は、毎会計年度終了後2カ月以内に部会長が作成し、事業報告書および部会員異動状況書とともに部会監査の意見を添えて、部会審議運営委員会を経て会長に報告する。
21. 部会の会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年の2月末日に終る。

## (部会内規の変更)

22. この部会内規の変更は、部会審議運営委員会ならびに理事会の承認をうける。

## 付 則

1. この部会内規は、理事会の承認のあった日から施行する。

## 日本化学会情報化学部会内規実施細則

1. 会 費：第10条の会費は当分の間次のように定める

正部会員 2,000円/年

法人部会員1口 30,000円/年(1口以上)

ただし、正部会員の資格を有し、部会役員会の推薦により総会で承認された者を名誉部会員と称し会費は免除される。

2. 運営組織：内規14条に拘らず部会設立時の役員は下記の通りとする

会 長 佐々木 慎 一 (豊橋技術科学大学)

副会長 藤 原 謙 (筑波大学電子情報工学系)

幹 事 阿 部 英 次 (豊橋技術科学大学)

飯 塚 健 (群馬大学教育学部)

細 矢 治 夫 (お茶の水女子大学理学部)

監 査 佐 藤 公太郎 (富士写真フィルム㈱)

山 本 修 (化学技術研究所)